

様々な天変地異に見舞われた1年が過ぎようとしています。私達がこの1年で学んだことは何でしょう。人により、地域により、年齢により、それぞれの環境により様々だと思います。学んだことを、それぞれが心に深く刻んで進んでいくことが、犠牲となった多くの尊い命に対する真摯な気持ちだと思います。私達が忘れていた、人の温かさや近隣の人の熱い情、若者の力、高齢者の再び立ち上がる姿。どれもこれもがかけがえのない人の生きている証です。絆です。

教育センターの春は・・・

教育センターに通ってくる子どもは、思春期にあたる中学生が主です。友だち関係で悩み、自己存在につまずき、学習に意欲が持てなくなり、次第に学校に足を踏み入れることができなくなった子ども達です。そんな傷ついた子ども達も、新しい世界に羽ばたく時です。ここで、高校へ進学する子たちがいます。みんな、今までの人生を踏み台にして、新しい旅立ちです。新しい生活に慣れたころ、「こんにちは」と、笑顔で近



況報告をしにきてくれるのを、楽しみに送りだします。残った子ども達は巣立っていく先輩の姿を見て、自分の未来が少しみえてくるだろうと思います。傷ついた羽は傷が治れば自分で巣立っていきます。センターは、流れの速い学校生活とは違い、個に応じた対応をしていきます。一緒に悩んで考えて共感して、それぞれの子ども達の道と一緒に模索していきます。これからも、子どもと達と共に歩んでいきたいと思

1年間、ありがとうございました。

〈所長から〉今年度の教育センターでの大きな事業が3月16日(金)の運営協議会をもってほぼ終了します。地域の皆様方のご協力をはじめ、各校より選出していただいた研究員の方々のお陰をもち、無事に1年間の様々な事業を終了することができました。

教育センターが発足し、今年で7年が経過しようとしています。センター便り、町の広報誌、CATVでの啓蒙など、様々な取り組みをしていく中で、少しずつですが、地域の皆様方の理解を得られるようになり、大変嬉しく思っています。

特に、相談関係においては、教育センターの役割は大変大きいと感じています。児童生徒だけでなく、子育てに悩みを抱えている保護者の方々にとっても気軽に相談できる場所として機能しています。また、子ども達の授業を自習にしないための代替派遣事業も各校に定着し活用していただいています。

私達教育センターの職員一同、これからも、これまで以上に、町民の皆さんのお役に立てるよう、最善を尽くし教育センターの運営に取り組んでいきたいと思

います。さらなるご理解、ご支援をよろしくお願いいたします。
〈相談員から〉子ども達と接していると、日がたつのがとても早く感じられます。家に閉じこもってしまった子、緊張で体を硬くしている子、言葉を発しない子・・・さまざまな子ども達が、日を重ねるごとに、柔軟になっていく姿はうれしいものです。生き甲斐です。悩まずに、いつでも声をかけてください。